

# BRIDGE KIDS PROGRAMS 2021

## 第2回 実行委員会

★Zoom 参加時はカメラを ON をお願いします★

日時：2020年12月18日（金）19:00～20:30

場所：健康づくりサポートセンターあいいふ 10F 講堂

議長：清水

挨拶：藤田

### 次第

1. 開会
2. ビジョンの唱和
3. 議事録作成人の指名
4. 議事次第ならびに配布資料の確認
5. 出席者確認
6. 副実行委員長 挨拶
7. バーチャル案について

#### ●APCC ビジョン●

わたしたち APCC メンバーは、  
OMOIYARI の心をもった地球市民となり  
子ども達の笑顔あふれる世界を実現します。

#### <OMOIYARI Point>

藤：（資料P1参照）先月・先々月ほど前から皆さんに出して頂いたアイデアをベースに、現在事務局主導でバーチャル案を考えている。今後細かいところを詰めていく必要があり、来年のリアルの実業がどうなるのか先が見通せない状況であるため、位置づけとしては大まかなものになるが、来年始動していきたいと思っている。バーチャルの世界となると、リアルに子ども達が海外に行く、もしくは日本に来るといった状態が、合わさったものになる。その為、今までチャレンジトリップと招聘型の事業で培ったノウハウの効果が出るのが一つの特徴になる。そういった点を踏まえ、説明をさせて頂き、皆さんのご意見や質問を集めていきたいと思っている。現在紙の上ではこれだけだが、まず日本と海外の子どもを2つに分けている。というのも、プログラムを構成するにあたって、事前の研修から振り返りを含めて、言語の壁は非常に高いから。日本の子ども達として11歳前後の福岡の小学生を対象にしようと考えている。当然、海外も2021年度来る予定だったJAの年齢が対象となる。

時期的には8月から9月を準備期間、10月を事業の本番、11月を振り返りとする構成を組んでいる。流れとして、事前の顔合わせは全員一緒に行い、どうい国の人たちがどれだけの人数参加するのかが分かる状態にする。その後、日本の子ども達だけと海外の子ども達だけに分かれ、それぞれがバーチャルの中で事前研修に取り組んでいく形を踏み、開会式に入る。

10月に関しては、記載の通り1日最大3時間とするが、これは時差の関係で取れる時間の枠が長すぎることで影響も出る為、約3時間・2チーム制にしている。例えば10月の第2週目・第4週目の土曜日にAチーム、第1週目・第3週目の日曜日にBチームといった感じで班を分けて行いたいと思う。これは、土曜日は日本の小学校は学校があることが想定され、逆に海外では日曜日に学校があるということも配慮した上で、この構成で進めていくことが良いのではと思っている。また、休憩や、途中で身体を動かすことも含む予定だが、子ども達は集中力が持たない可能性があるため、1コマ30分程度くらいの長さが良いと思う。

外国人と日本人の各1人ずつを全体の進行として考えており、シャペロンもしくはPAIに主にファシリテーターとし

て参加してもらおう。今日は話してもらった内容は別だが、この実行委員会にBCIOのアリフが参加してくれている。これまでブリッジクラブのメンバーはPAプログラムを展開するために国内に入って来てもらっていた。プログラム自体は彼らが考え、本体事業とは別に走らせるものが多かったが、バーチャル案を日本側だけで海外参加者を束ねていくことが非常に困難だと考えられる為、これからはBCIOの力を借りて共同でプログラム構成をしていきたい。

全体の参加人数は、海外2～3に対して日本1を考えているが、ここはまだ変更する可能性もある。現在考えているバーチャル案の大まかな流れは、1日目に交流と文化の紹介、自己紹介や身体を動かすアクティビティ、共通のテーマに沿った文化紹介を行う。2日目に世界中で話題になっているSDGsについて会議的な要素を取り入れたことを行いたい。

今年事業が実施できず来年も事業が実施できない場合、2020年や2021年に来るはずだった子ども達が数年後、PAとして果たして行けるのか行けないのかという問題が海外窓口のほうでも出てくるはず。その為、最後は閉会式にて、このプログラムに参加が出来た子が将来PAの資格を認定できるような内容のものに仕上げたいと思う。本番後11月に1回、振り返りを、おさらいという形で実施したいと思っている。

また、このプログラムは事務局主導で動いてもらっている。例年の皆さんが経験してきた実行委員会の進め方とは少し違うが、あえてそうさせてもらっている。というのも、バーチャル案については現在の実行委員会メンバーの職務には入っていないため。実行委員会に参加して下さっている皆さんとしては自分達が関わっていくのかどうか、と疑問を感じていると思うが、ボランティアさん達にも参加していただける形も考えていきたい。では誰が、このバーチャル案を実施するのかという疑問が出てくると思うが、これは実行委員会の中で回していきたいとも考えている。しかし、事業の内容の専門性やシステムの・技術的な面を考えた時、途中で部会を1つ増やし、実行委員会の中に組み込むことも想定される。コロナの影響で先が見通せない中、はっきりしたことは言えないが、どちらにしても多くのボランティアさんに参加してもらい、福岡の子ども達に少しでも国際交流の機会を与えていきたいと思う。是非皆さんも、各セッションでの活動での経験を元に意見、質問を頂きたいと思っているのでよろしくお願いします。

森田：(質問) 研修は日本の子どもと海外の子どもを別々に行うとのこと、海外はわからないが日本の場合11歳の子どもだと、親がいないとログインできない、パソコンを使えないという問題があると思う。研修は親も一緒に参加する予定はあるのか？

藤： 現在研修の内容は検討中だが、研修の中でパソコンの技術的な研修を事前に組もうと考えている。家庭によってはパソコンに慣れている子どももいると思うが、全く使えない、パソコンに触るのが今回初めてという子どももいると思うので、そのフォローという意味で親にも一緒に参加してもらおうのか今後議論が必要である。チャレンジトリップを例に出すと、親がいるとどうしても甘えてしまうということもあるし、隣に友達がいると助けってもらえることによって理解できるというプロセスを踏ませることを考えると、親は参加しないほうが良いのではないかと、私たちボランティア側で指導し、何か組み立てることを考えても良いのではないかと考えている。現時点ではどちらか決められない。しかし、研修は確実に必要だと思っている。

児玉：(質問) バーチャル案が動くとなれば、いつ決まって、いつスタートするのか？(いつごろ報告転換するか。)

藤： タイミングを合わせるのが非常に難しいが、現状12月1日に招聘要項を各国に配っており、1月30日前後に回答が集まる。ないとは思いますが、その時に参加国がゼロということもあり得る。実際には数か国は参加したいという返事が来ると思っており、そこから4月までの間で進める過程でリアルの事業を実施するか検討する。バーチャルは募集をかけるのは遅くとも5月か6月だと考えているため、そのためには実質、細かい内容を2月、

もしくは3月には決めないとスタートを切れないのでは、と考えている。

児玉：(質問) チャレンジトリップの視点から言うと、3月はすでにスタートしておかなければならない時期。その前に決めるということか。

藤： チャレンジトリップに限って言うと、夏の実施判断は招聘の実施判断とは別になる。また、このバーチャル案でチャレンジトリップ部会がバーチャル案を実行するかどうかは決まっていない。

児玉：(意見) チャレンジトリップのプレ部会にて、実施判普段が何月に下されるのか、また何か決める際にはバーチャル案が決まってからが良いのは？という流れで動いているので、いつになるのか知りたい。

福岡： チャレンジトリップについては1月25日にコロナミーティングを行い、状況を確認して夏の実施判断をするのか、どこまで様子見ができるのか決めたい。もし募集をすれば、遅くとも2月末にはAPCCとして実施するかどうかを決めなければ間に合わないのでは、と考えている。よって、遅くとも2月末ごろまでには夏に派遣をするかどうかが決められると思う。

藤： チャレンジトリップとこの案は合わさらない。このバーチャル案は全く別の部会が出来上がり、走り出すことになる可能性もある。そうなるとチャレンジトリップ部会とは全く関係ない部会が行うことになるし、実行委員会で準備を行う中で、事前の顔合わせの時には多くのボランティアの方に参加してもらい、例えばウエルカム部会が担当しよう、という形になっても良いと思う。そういった形になれば、実行委員会の中で実施をしていく。その段階でもし8月のチャレンジトリップを実施する、もしくはチャレンジトリップがなしになっていた場合、事前の国内のこども達向けの研修で、これまでチャレンジトリップが培ってきた経験やノウハウがあるので、そこをチャレンジトリップ部会にやってもらおうという案が出るかもしれない。  
後出しのようになってしまいが、バーチャル案のスケジュールを見ていただくとわかるように7月が山場ではなくなってくる。8,9,10月とお力添えをいただくことになってくると思うので、皆さん協力をよろしくお願いします。

## 8. 協議事項

(討議・協議)

ーなし

## 9. 依頼・報告・確認事項

ー【BCIO】スマイルストリーミングコンサートについて

アリフ： 今回BCIOでスマイルストリーミングコンサートが開催できることを非常に嬉しく思う。なぜならBCIOのメンバーの中には才能を持った仲間が沢山いるので、彼らを紹介する機会を持ちたいとずっと思っていたからだ。  
スマイルサポートプロジェクトが開始された時、プロジェクトの為に何が出来るか考えた。そして今回のスマイルストリートコンサートを開催し、自分たちの才能を披露することがとても良い機会だと思った。コンサートの開催に向け、各国のBCIOプレジデントに出演に協力してくれる参加者がいないか呼びかけたところ、6名集めることができた。残念ながら太平洋に面する国からの参加は叶わなかったが、東南アジア、オーストラリア、ブータン、アメリカ、バングラディッシュ、韓国など、各国・地域のミュージシャンやパフォーマーが参加して頂けることになった。今回参加予定のパフォーマーは、10代から20代のPAやJAだけでなく、彼らのご両親など様々な世代の方が参加する(日本からは毛利さんが参加予定)。世代を超えて、同じような思い出や記憶を共有しあうことができれば良いと思う。また、今回の取り組みはBCIOとして初めての取り組みにあたるので生配信という形ではなく、事前に撮影したものを録画し、放送する予定だ。

コンサートに向けて、各国に散らばるBCIOマネージメントチームや出演者達とオンラインでミーティングを実施する中で上手くいかないことや苦戦する場面もあった為、このコンサートは自身にとっても大きな挑戦に感じた。元々9月にコンサートを開催するという話がでて、実際に動き出したのは10月だった。実質1か月半でコンサートが開催できる状態まで上げることができた。そして集まった出演者は、各国・地域で有名な方々ばかりで、忙しい合間や時間を調整して、このコンサートに参加してもらえることになった。

このコンサートを通して、APCCの関係者や参加者だけでなく家族・友人・同僚の方たち等多くの人がAPCCを知ってもらえる機会になれば良い。なぜなら「音楽」というのは世界の共通言語にあたると思うからだ。そして、多くの人がこのコンサートのリンクをシェアし、沢山の人の目に触れることができたら嬉しい。

#### ー【ボランティア】年間交流計画

岡本：12月13日に実施した交流会では、韓国の人たちを含めての観光やお土産、韓国語を題材に交流することができた。今後、ボランティア部会では、このような交流会を月1回の実施を予定している。来月の詳細に関しては年始に、それ以降の交流会に関する詳細は随時配信予定。また、ボランティアの再登録も重ねてよろしくお願いします。

#### ー【プロモーション】年間広報活動計画 & 広報依頼について

西村：(資料P4参照) オンライン交流会などオンラインで実施されるイベントに関しては画面録画等を利用し、広報用の写真撮影ができればと考えている。プロモーション部会として販売したいと考えている所に丸印を記載させて頂いた。しかし、こういったコロナ禍ということもある為、会場の規制や状況を見て、都度、担当部会長と打ち合わせができればと思う。

(資料P5参照) 「Facebook掲載内容記入フォーム」というものが今回新しくなる。この記入フォームというのを作成した理由は、プロモーション部会としてAPCCの活動を広めるだけでなく、他部会からの掲載希望をとることで、全部会でAPCCを盛り上げていければという背景があったからだ。

今まで実施していたFacebookでの取り組みである「ネクストAPCC」というものはボランティアさんが撮影したアルバム特集だけだった。今後は他部会の行事の事前告知など内容を充実していきたい。

運用方法はイベントや行事が実施される1か月前に、各部会の部会長・副部会長に記入フォームに情報を記入。担当コーディネーターを通してプロモーション部会に提出して頂きたいと思う。この記入フォームは、まだ仮案なので、今後変更の可能性もある。

#### ー【BCJサポート部会】年間活動計画

山田：(資料6ページ参照) 9月27日にBCJメンバーで国連ハビタットの補佐官に講師として「国際交流についてなにができるか」の講話をオンラインで頂いた。その中でワークショップを開催し、このメンバーで何が出来るか、また、今期の活動として何が出来るかを考える機会を作った。その中で出てきた内容をまとめたのがこの年間目標である。

(資料6ページ 年間目標読み上げ) また、上の表については、2パターンあるが、基本的には1番のオンラインのほうで進めていく。年明け、1月下旬から順序ミーティングを行い、だいたい3か月に1回BCとの交流をオンラインで行いたいと考えている。BCとの交流については、同じBCだけではなく、事前に打ち合わせをし、各国のBCと交流をしていきたい。2番は対面で、先ほどの話だと2月、3月に実際に実施できるか決まるとのことだったが、実際に決まってきたら、夏はPA交流に向けて計画を考える。BCJのメンバーも先が見えない状況の中、悩んでいる。10月にプレジデントが川口君に代わり、引継ぎは終わったがまだ慣れない中で悩みながら頑張っているの、それをサポートしていきたいと思う。

#### ー【安全管理】APCCにおける新型コロナウイルス感染症対策について

恒川：(資料 7ページ参照) 昨今のコロナウイルスの状況により、国を跨ぐ移動がかなり制限されており、APCCにも多大な影響が出ている。APCCの新型コロナウイルスに対するスタンスをはっきりさせておいたほうが良いであろうということで、基本方針を作成した。この文章の中で、1は基本方針になっているので、皆さんにご理



解を頂きたい。2の参加条件と3の参加同意書については、基本的に各部会の方々が使うことはないが、主に事務局のほうで文章を作成する際に今後これを活用していくことになる。

#### ー【医療】今後のコロナ対策について

藤：12月に入ってから福岡でも感染者が増えてきた。今後、感染拡大防止策として今までよりも注意をしなければならないため、皆さんに2点お願いがある。

1点目は部会の開催について。対面の部会に関しては2月末まで控えていただき、感染拡大予防のためオンラインでの開催を中心に進めて頂きたい。これから行くぞ、という時期ではあるため、出だしからつまづいてしまうと感じる方がいるかもしれないが、身体が第一なのでご理解ください。ただ、プレ部会・実行委員会・正副に関しては決め事も多く、共有しなければならないこともあるため、しっかりと対策をしたうえで対面での実施を良しとする。もしプレ部会をオンラインでということであればオンラインを推奨したいと思っているので検討して頂きたい。

2点目は体調記録報告について。皆さん健康日記ご存じでしょうか？先日医療部会と協議を行ったが、今後、色々なプログラムを実施するにあたって、直近2週間の行動記録が運営側も参加者側も義務化される。最低でも1週間の体調記録の報告を義務付けることを進めていきたいし、これを習慣づけていくため、このアプリを上手く利用してほしい。もし職場や家庭で何かあった場合にはこのデータをそのまま使うことが出来、もしもの時に説明もでき、とても便利。アプリの利用するにあたっては、ボランティアさんたちに部会において部会長が説明する際に、無理強いをして良いのか、強制して良いのかなどあるかと思うが、もし意見があればその後残ってお話する時間を作るので、質問してください。部会長が個人的にではなく、これはAPCCの方針としてボランティアさんとして活動して頂く中で必須なのだと、私のせいにして頂いて構わないので、そういった形で進めてほしい。

今回、1週間の行動記録を取ってもらったが、今この場にいる方の中で1週間、行動記録が取れた方どれくらい居ますか？100点満点で取れた方は今手を挙げてくださった方々だと思うが、実は私も完璧には取れていない。1日、2日忘れていた日があった。まずは習慣づけを徹底し、来年の本番が始まったらこの方法で回していかなければいけないので、今のうちから皆さんにお願いしたい。また、場合によっては状況次第で1週間の行動記録を取れてない方に関しては、私から参加を控えてもらうお話をしていかなければいけなくなってしまう。できればそういったことはしたくないので、出来る限り皆さん行動記録を取って頂くようお願いいたします。

木村：行動記録に関して。本学でも本日1名PCR陽性になり、本来であれば私がいれふに行く予定だったがその対応に迫られて対面での参加が出来なくなった。このように、1人でもコロナが出てしまうと様々なところに影響がでてくるので、感染対策は大変だとは思いますが、出たら出たでもっと大変なことになるため引き続き注意してほしい。本日感染が確認された学生も行動記録を取っており、誰とどこで接触したのかがすぐに分かったので濃厚接触者の特定ができ、大学としてのすぐに対応ができた。皆さんの手を煩わせて大変だとは思いますが、周りの方を守ることに繋がり、何より自分を守ることもできるため是非ご協力をお願いしたい。

清水：コロナ対策に関しては皆さんのご協力がないと何も始まらないので、是非一人ひとりが意識を持って対策をお願いします。

#### 10. 次回開催日の決定

日時：2021年2月26日（金） 19：00～

場所：健康づくりサポートセンターあいれふ10F 講堂(Zoom併用)

#### 11. 事務局より

有富 : 事務局より3点

1点目、就任承諾書の提出締め切りが本日。未提出の方は提出をよろしくお願ひします。対面でお会ひできずに、承諾書をお渡しできていない方は、WEB等でお渡しできるよう現在調整中。詳細が確定次第、ご連絡する。

2点目、毎年年明けに案内させて頂いている筥崎宮への神事について。本年度は3月または4月の開催を予定している。日時決定後、ご報告させて頂く。

最後に、退職者(近藤)・産休職員(有富)から挨拶。

12. 総括

13. 閉会

<配布資料>次第・出欠表

P1 バーチャル案について  
P 【BCIO】スマイルストーリーミングコンサートチラシ  
P 【ボランティア】年間交流計画  
P 【プロモーション】年間広報活動計画  
P 【プロモーション】広報依頼フォーム  
P 【BCJサポート】年間活動計画  
P 【安全管理】APCCにおける新型コロナウイルス感染症対策について  
別紙 各部会から出てきたバーチャル案アイデア一覧